連絡事項

7月3日は授業開催

7月10日は授業なし

干渉計の生みの親: Martin Ryle

1974年のノーベル賞

- Marin Ryle (1918-84) 英国ケンブリッジ大学で 電波干渉計を開発
- A. Hewish (パルサーの発 見)



Yor their pictured by research in racks distriptuists. Byte for his observations and inventions, in particular of the specture synthesis because, and inexists for his describe cole in the



\$ 1/2 of the price United Kingdom

University of Cambridge University of Cambridge Cambridge, United Kingdom Cambridge, United Kingdom

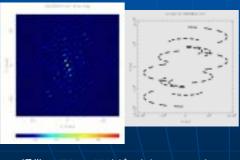


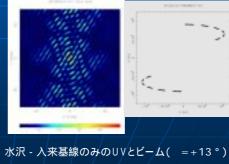
@ 1/2 of the price United Kingdom

t: 1934



■ $I(x,y) = S(u,v) \exp(-2 i(ux+vy)) du dv$ 実観測では(u,v)サンプルが不完全であり、点源が 点源として観測されない。強度1の点源を観測した ときに得られるイメージをビームパターンという。



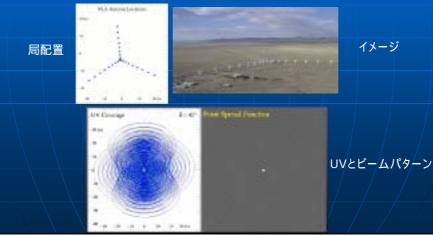


イメージ

通常のVERAのUVとビーム(=+13°)

VLAのビームパターン

■ 27台のアンテナをY字状に配置し、最適な ビームが得られる。





■ 系外銀河のHI観測などで活躍



WSRT (Westerbork 干渉計)



VLA (Very Large Array)

センチ波の干渉計

Ryle telescope (英国) 13m x 8台



ACTA (豪州) 22m x 6台



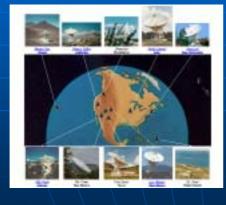




VLBI: Very Long Baseline Intereferometry

VLBA (米国) 25m x 10台

EVN (ヨーロッパを中心に世界中の望遠鏡が参加)



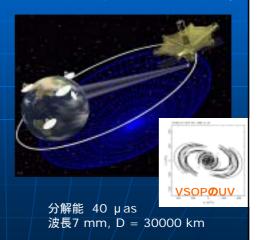


VLBIアレイの例 2

VERA 20m x 4台



分解能 1 mas 波長1 cm, D = 2300 km VSOP-2 (VLBI用アンテナを 積んだ衛星, 2012年打上予定)





より大きい望遠鏡を求めて国際協力の時代に

ALMA チリのアンデス山地(標高5000m)

日米欧で計80台のアンテナを建設

ACA: 日本分担

SKA 国際協力で1km平方の集光 力を持つ望遠鏡を計画中



